

1. 国の現状と観光振興の取組

国は、2016(平成28)年3月に「明日の日本を支える観光ビジョンー世界が訪れたい日本へー」を策定し、観光を「地方創生の切り札」「成長戦略の柱」と位置づけています。ビジョンでは、2030(令和12)年までに訪日外国人旅行者数を6千万人、訪日外国人旅行消費額を15兆円、日本人国内旅行消費額22兆円を目標に掲げて、国を挙げて「観光先進国」の実現に向けた各種施策を展開してきました。

こうしたなか、新型コロナウイルス感染症の拡大・長期化により、国内外の観光需要が大きく減少し、国内の観光関連産業に深刻な影響が生じることとなりました。国は、国内の観光需要の回復と観光関連の体質強化を図るため、2020(令和2)年7月に「観光ビジョン実現プログラム2020ー世界が訪れたい日本を目指してー」を策定し、(1)観光関連産業の雇用の維持と事業の継続、(2)反転攻勢に転じるための基盤の整備、(3)国内旅行の需要喚起、(4)インバウンドの回復、の4つのプログラムを、政府、民間、地域が一体となって着実に実行することで、観光立国の実現を図ることとしています。

「観光ビジョン実現プログラム2020ー世界が訪れたい日本を目指してー」

(1) 観光関連産業の雇用の維持と事業の継続

宿泊施設等の観光インフラが損なわれることがないよう、雇用の維持と事業の継続の支援策を最優先に取り組みます。

(2) 反転攻勢に転じるための基盤の整備

内外の観光客を呼び込む意欲のある中核的な宿泊施設を中心に、施設の改修や経営内容の見直しを促すとともに、多様な資金の確保のために必要な措置を講じるなど、反転攻勢に転じるための基盤の整備を行います。

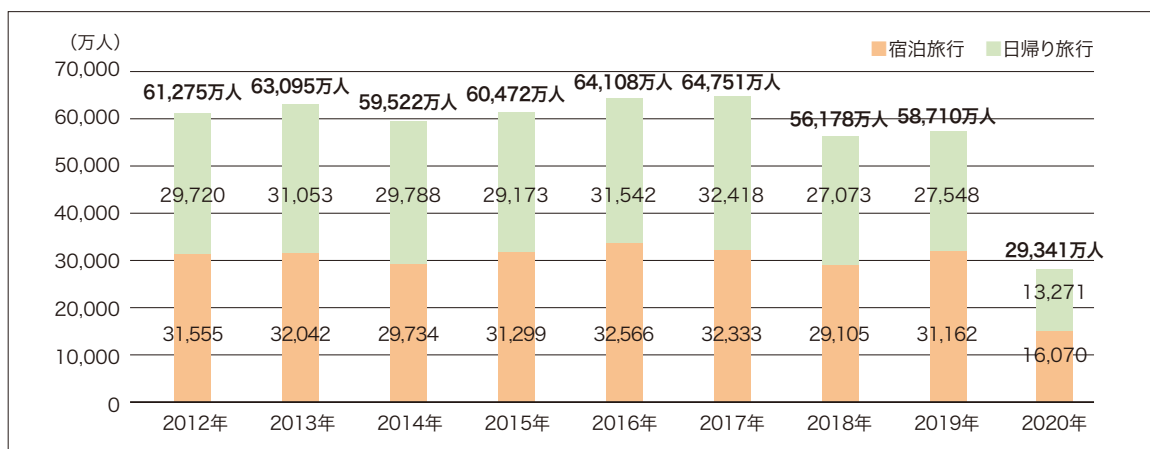
(3) 国内旅行の需要喚起

感染の状況等を見極めつつ、観光需要の強力な喚起と需要の平準化を進め、国内観光の回復を図ります。これを契機に、ワーケーションの活用など働き方改革とも合致した、新しい旅行スタイルを普及させます。

(4) インバウンドの回復

国・地域ごとの感染収束を見極め、誘客可能となった国等からインバウンドの回復を図ることで、再び観光を成長軌道に乗せ、観光で日本の津々浦々が活性化するような観光立国を目指します。

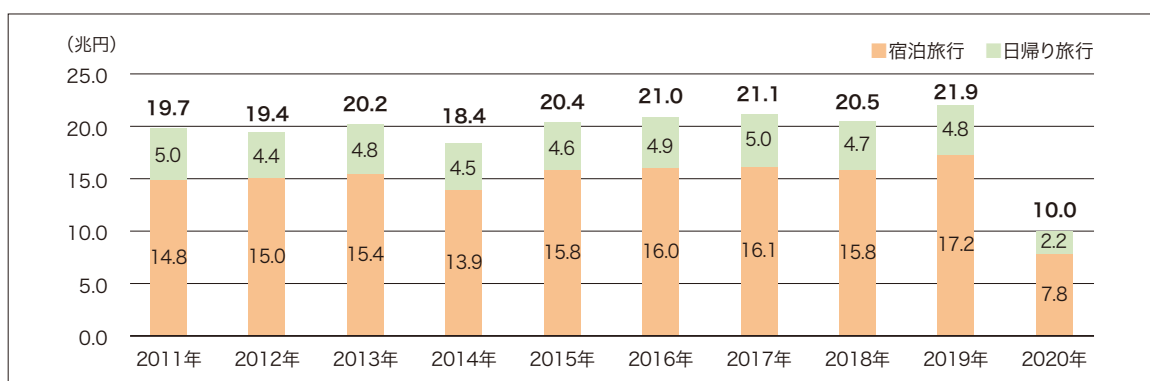
(1) 日本人国内延べ旅行者数の推移



資料:観光庁「旅行・観光消費動向調査」

- ☑ 日本人の国内延べ旅行者数は、近年60,000万人前後で推移していましたが、2020（令和2）年は新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、宿泊旅行、日帰り旅行ともに大きく減少し、前年比50%減となりました。

(2) 日本人国内旅行者消費額の推移



資料:観光庁「旅行・観光消費動向調査」

日本人国内旅行消費額及び前年比(確報値)

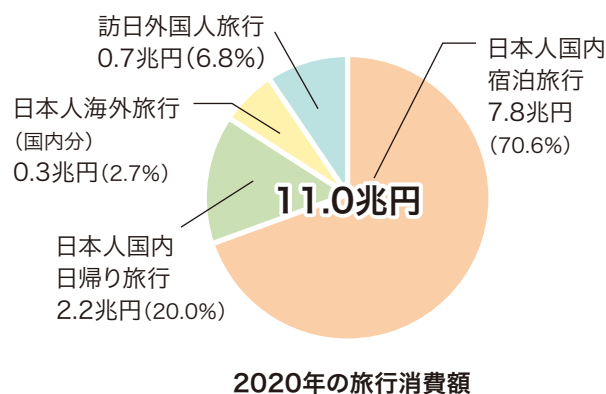
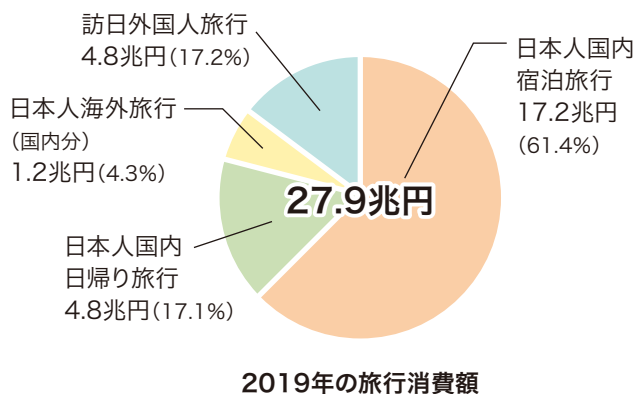
単位:億円

単位：億円

国内旅行全体			うち宿泊旅行		うち日帰り旅行	
	旅行消費額	前年比	旅行消費額	前年比	旅行消費額	前年比
2011年	197,369	-3.4%	147,841	-3.8%	49,529	-2.2%
2012年	194,208	-1.6%	149,710	+1.3%	44,498	-10.2%
2013年	201,871	+3.9%	154,101	+2.9%	47,770	+7.4%
2014年	184,204	-8.8%	138,909	-9.9%	45,295	-5.2%
2015年	204,090	+10.8%	158,120	+13.8%	45,970	+1.5%
2016年	209,547	+2.7%	160,335	+1.4%	49,212	+7.1%
2017年	211,130	+0.8%	160,798	+0.3%	50,332	+2.3%
2018年	204,834	-3.0%	158,040	-1.7%	46,794	-7.0%
2019年	219,312	+7.1%	171,560	+8.6%	47,752	+2.0%
2020年	99,738	-54.5%	77,723	-54.7%	22,015	-53.9%

- ☑ 国内宿泊旅行は2011（平成23）年に14.8兆円でした。2019（令和元）年に17.2兆円に成長しました。
- ☑ 2020（令和2）年は新型コロナウイルスの感染症拡大の影響により、前年比54.5%減の10兆円でした。

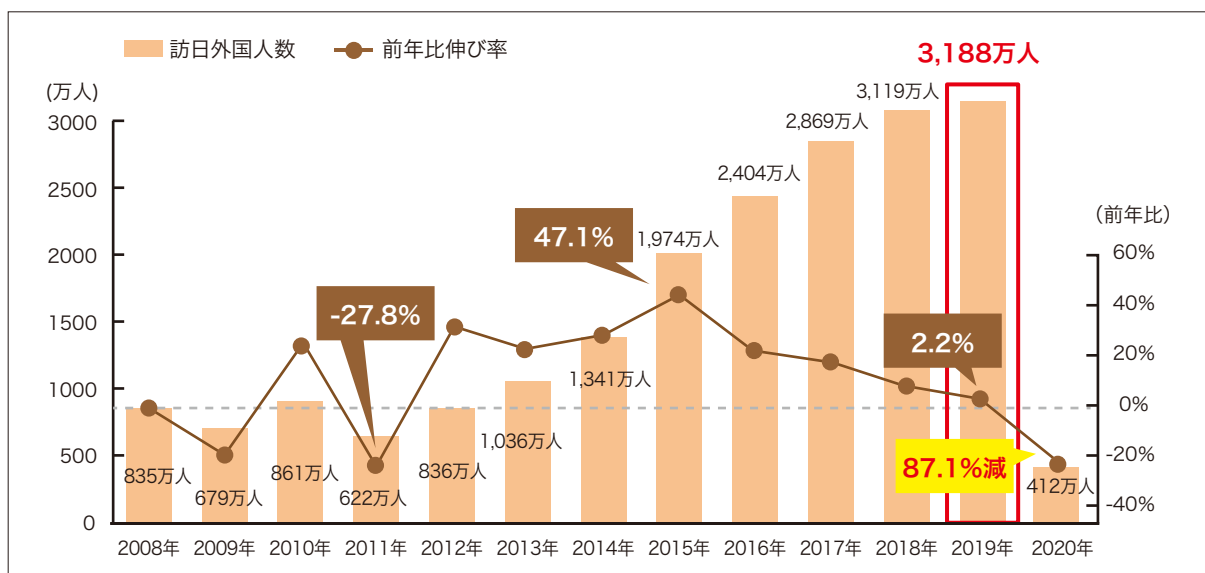
(3) 日本国内における旅行消費額から見た新型コロナウイルス感染症の影響



資料：観光庁 国内旅行消費額の内訳

- ☑ 日本人及び訪日外国人旅行者による日本国内における旅行消費額は、前年比60.6%減の11兆円でした。
- ☑ 日本人海外旅行者（国内分）による消費額は75.0%減少（1.2兆円が0.3兆円へ）しました。
- ☑ 訪日外国人旅行者による消費額は85.4%減少（4.8兆円が0.7兆円へ）しました。

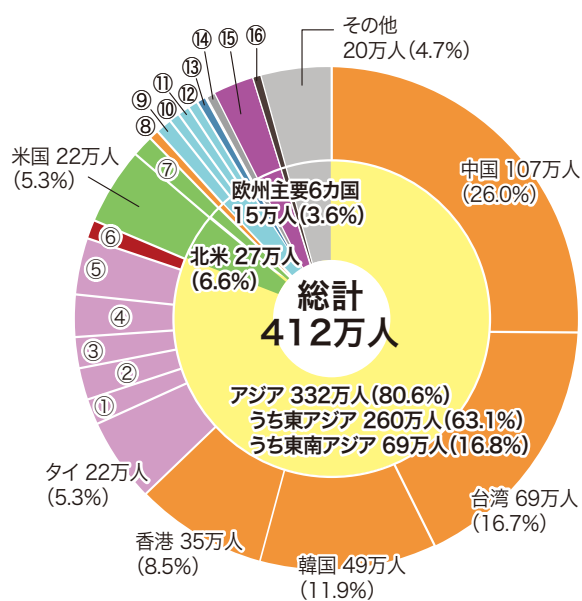
(4) 訪日外国人旅行者数の推移



資料：日本政府観光局

- ☑ 2019（令和元）年に3,188万人を記録し、7年連続で過去最高を更新しました。
- ☑ 2018（平成30）年から2019（令和元）年にかけての伸び率は2.2%（70万人増加）と微増でした。
- ☑ 2020（令和2）年は、新型コロナウイルス感染症の世界的な流行に伴い、各国・地域において水際対策等が強化された影響等により、前年比87.1%減の412万人でした。

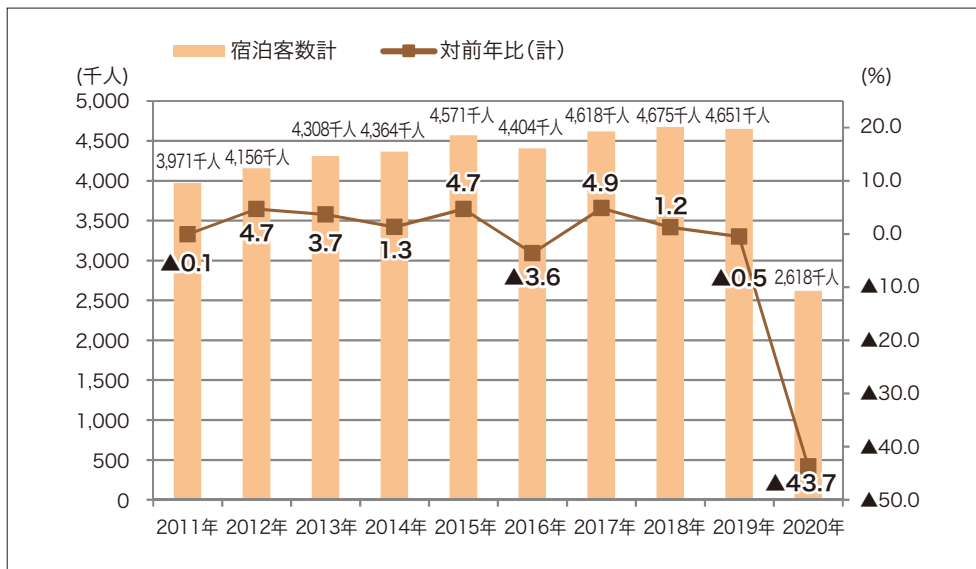
訪日外国人旅行者数の内訳（2020（令和2）年）



資料：日本政府観光局資料に基づき観光庁作成

2. 大分県の現状と観光振興の取組

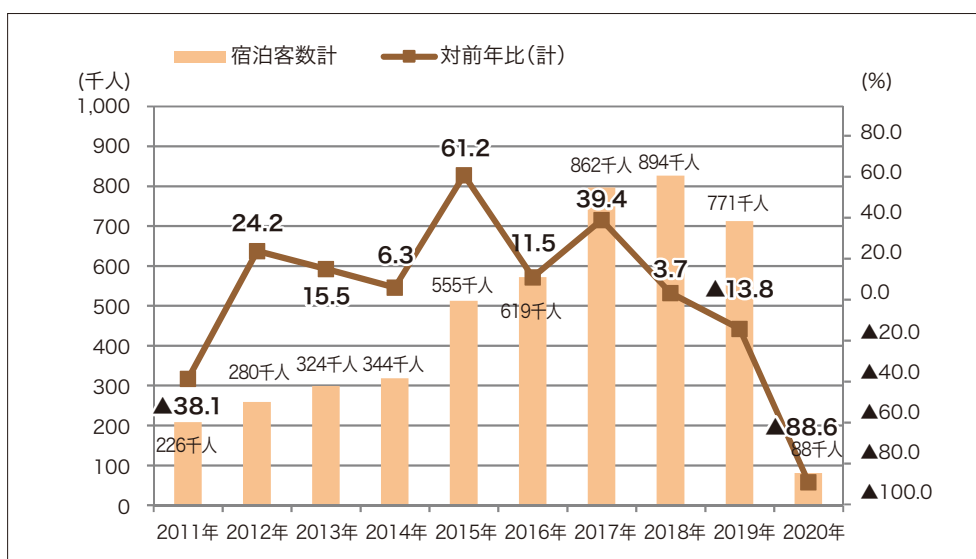
(1) 大分県内の宿泊客数の推移



資料：大分県観光統計調査

- ☑ 2020（令和2）年の県内宿泊客数は、日本人宿泊客が対前年比34.8%減、外国人宿泊客は88.6%減となり、全体では対前年比43.7%減となりました。

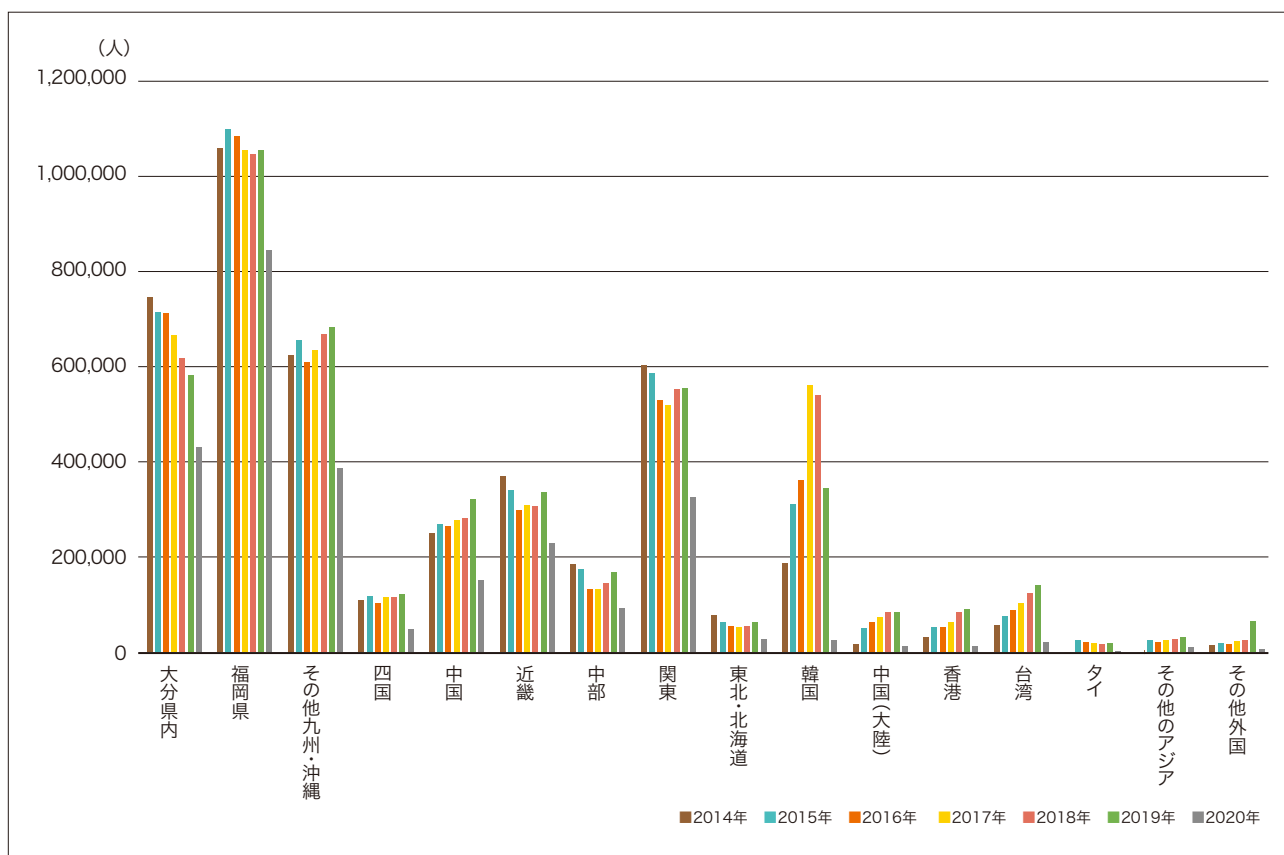
(2) 外国人宿泊客数の推移



資料：大分県観光統計調査

- ☑ 外国人宿泊客数は、2019（令和元）年からの韓国からの宿泊客の減少に加え感染症対策に伴う入国規制により減少傾向。2020（令和2）年は対前年比で88.6%の減となりました。

(3) 発地別の宿泊客数の推移



資料：大分県観光統計調査

- ☑ 2014（平成26）年時点で745,891泊あった大分県内からの宿泊者数は年々減少を続け、2019（令和元）年には581,997泊と163,894泊減少しています。
- ☑ 2014（平成26）年時点で357,721人泊であった中国・四国エリアからの宿泊者数は2019（令和元）年には441,899人泊と増加しています。
- ☑ 近畿、中部、関東エリアからの宿泊客数は、いずれも2014（平成26）年から2019（令和元）年にかけてそれぞれ微減傾向にあります。
- ☑ 大分県の外国人宿泊客の8割を占める韓国の実績を見ると、2014（平成26）年時点185,882人泊の実績から2018（平成30）年には539,060人泊と大幅に増加していますが2019（令和元）年には344,269人泊と減少に転じています。
- ☑ 今後の伸びが期待される、中国（大陸）、香港、台湾については、2014（平成26）年時点から大きく増加しています。

(4)大分県の取組／「大分県長期総合計画 安心・活力・発展プラン2015(2020改訂版)より」

①国内誘客の推進と海外誘客(インバウンド)の加速

- * 圏域ごとのニーズに応じた国内誘客
- * 国・地域ごとにターゲットを絞った海外誘客
- * 団体旅行など様々な旅行形態に対応した誘客
- * 広域連携による観光の推進
- * ツーリズムおおいたのDMO機能の強化と地域観光協会等の活性化

②おんせん県おおいたの地域磨きと観光産業の経営力強化

- * 観光産業の経営力強化
- * おんせん県ならではの素材磨きと観光消費の拡大
- * 観光産業を担う人材の確保・育成とネットワークづくり
- * 安全・安心で快適な受入態勢の整備
- * 景観の保全・再生とツーリズム基盤の整備

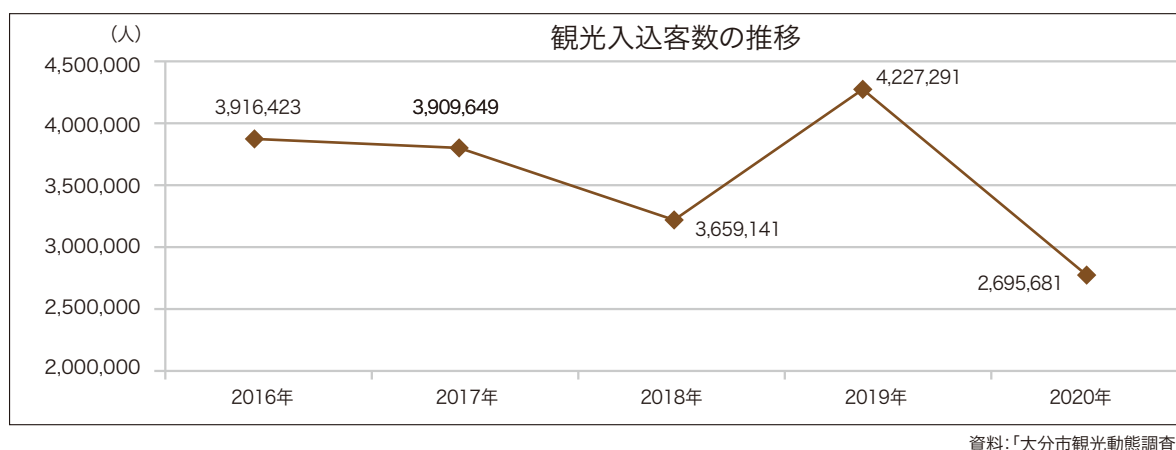
指 標 名	年度	基準値	2018(H30)年度		2024(R6)年度
			目標値	実績値	目標値
観光入込客数(千人)	2013 (H25)	17,563	20,150	19,714	20,950
観光消費額(億円)	2013 (H25)	2,072	2,357	2,252	2,600
県内宿泊客数(千人)	2014 (H26)	6,101	7,050	7,774	7,830
外国人宿泊客数(千人)	2014 (H26)	400	960	1,442	1,870

3. 大分市の観光の現状

前計画の「大分市観光戦略プラン」では、「観光入込客数」「観光宿泊客数」「外国人観光宿泊客数」「来訪者満足度」について目標値を掲げ、観光振興を推進してきました。その結果、統計データでみる観光の現状は、以下のとおりです。

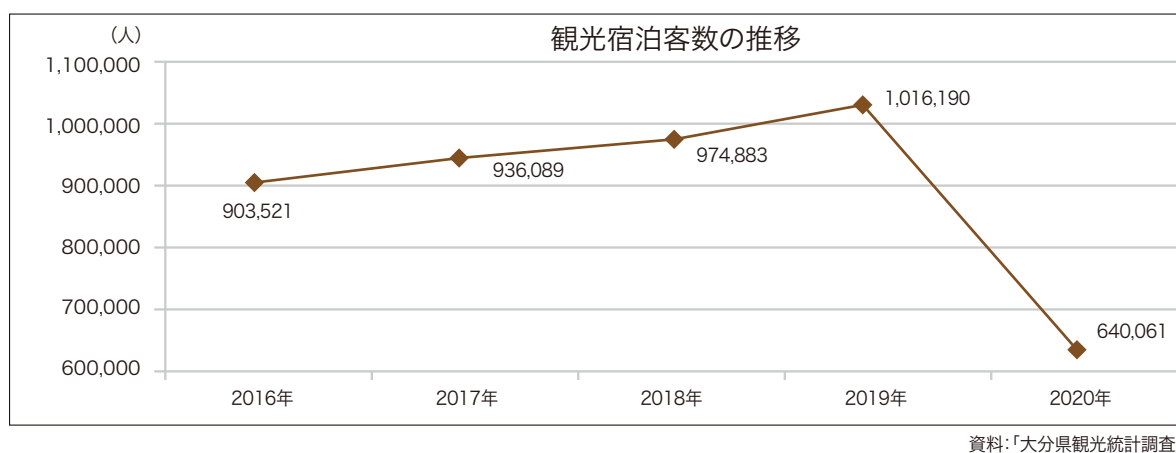
(1) 観光入込客数の推移

2019（令和元）年までの数年間は概ね4,000千人程度で推移していましたが、2020（令和2）年は新型コロナウイルス感染症拡大の影響により大幅に減少し、約2,695千人となりました。



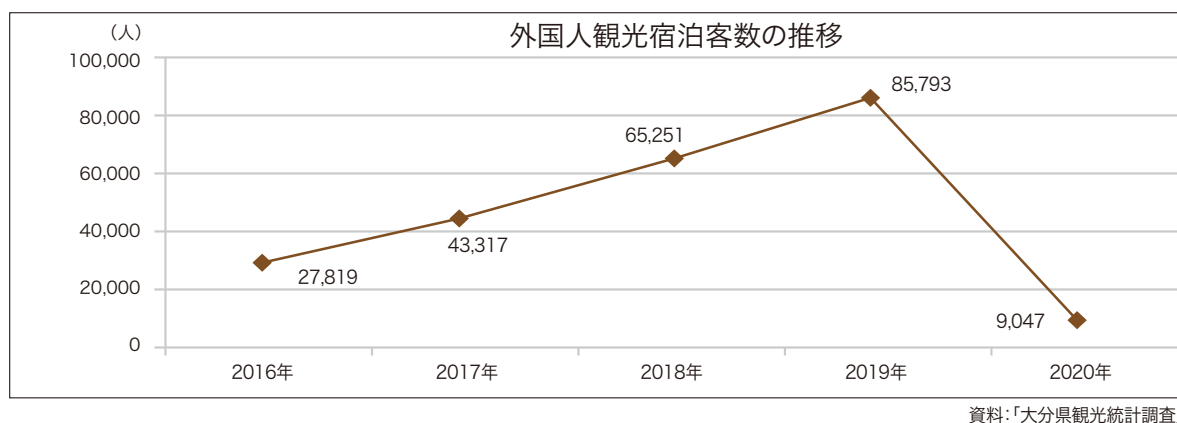
(2) 観光宿泊客数の推移

近年は、観光宿泊客数が年3～4％程度の着実な伸びを示しており、2019（令和元）年には1,000千人を超えましたが、2020（令和2）年は新型コロナウイルス感染症拡大の影響により大幅に減少し、約640千人となりました。



(3) 外国人観光宿泊客数の推移

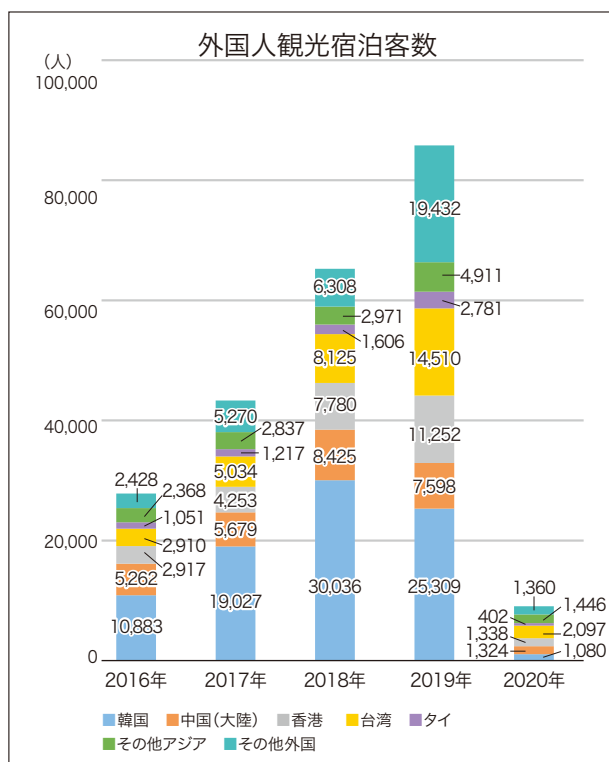
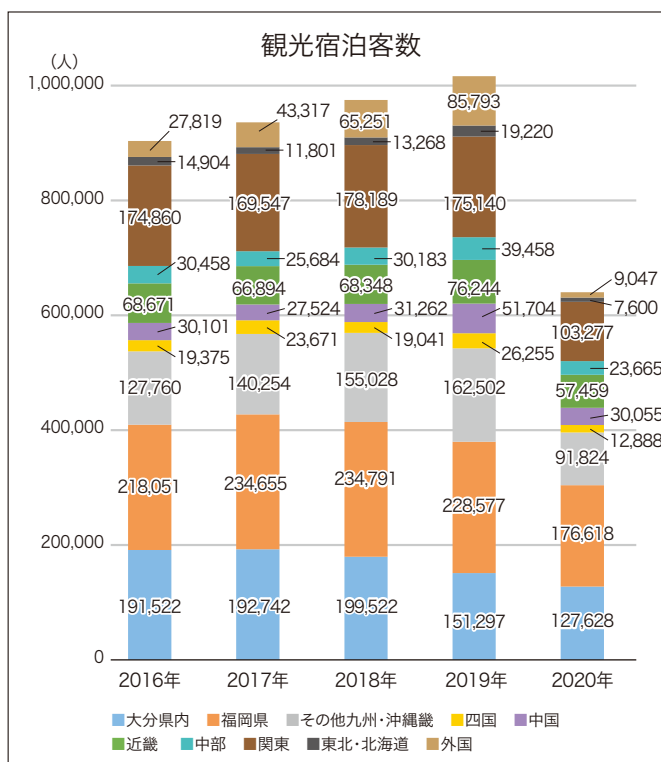
近年は、外国人観光宿泊客数が急激な伸びを示しており、2019(令和元)年にはラグビーワールドカップ2019大分開催等の効果もあり約85千人となりましたが、2020(令和2)年は新型コロナウイルス感染症拡大の影響により入国制限措置等が取られるなか大幅に減少し、約9千人となりました。



(4) 発地別の観光宿泊客数の推移

本市の観光宿泊客の内訳は、福岡県からが最も多く2割を超えており、大分県内やその他九州・沖縄を含めると、九州内からが半数以上を占めています。また、外国人観光宿泊客の割合は、近年、増加傾向にあり、最も割合が高くなった2019(令和元)年では、約8%でした。

外国人観光宿泊客の内訳を国・地域別でみると、韓国からが最も多く、次いで台湾、中国(大陸)であり、アジアからが約8割を占めています。



資料:「大分県観光統計調査」

4. 第1次大分市観光戦略プランの成果と課題

主な成果	主な課題
＊2018(平成30)年の「国民文化祭／全国障害者芸術・文化祭」や、2019(令和元)年の「ラグビーワールドカップ2019™日本大会」などの大型イベント開催時に本市を訪れた国内外の観光客に対して、県や事業者・団体、市民と一体となったおもてなしを行いました。 ＊大型イベント開催を契機として、まちなかや観光施設等におけるバリアフリー化の推進、公衆無線LAN環境の拡充、多言語対応の充実など観光客の受入態勢の整備が図られました。 ＊大分県や近隣自治体等と連携を図りながら、海外旅行商談会への参加やインフルエンサーを活用した情報発信等により、訪日外国人旅行者の積極的な誘致に取り組みました。 ＊首都圏や関西圏での観光物産展等を通じて本市の食のPRを行うとともに、「豊後料理」や「大分市認証加工品『Oita Birth』」など食の魅力づくりに取り組みました。 ＊南蛮BVNGO交流館(2018(平成30)年)や大友氏館跡庭園(2020(令和2)年)の整備を行うとともに、宗麟公まつり等のイベントを継続的に開催することで、大友氏の魅力発信を行った。また、府内城跡で仮想天守イルミネーションを実施するなど、歴史資源の観光活用を図りました。 ＊地域の魅力再発見や観光客の周遊促進、滞在時間の延長を目的として「大分まちあるきガイドブック」や「大分の湯めぐりガイドブック」などの観光パンフレットを発行しました。 ＊2019(令和元)年に完成した「ななせダム」を中心に、「道の駅のつはる」や「のつはる天空広場」などを整備し、野津原地域における地域資源の魅力向上が図られました。これら地域資源を活用し、インフラツーリズムの推進、文化・交流イベントの開催などの地域活性化に向けた取組を行いました。	＊高崎山自然動物園については、おさる館の活用や水族館「うみたまご」との連携強化によるイベントの充実など、入園者の滞在時間延長に向けた取組が必要です。また、本市を代表する観光地として、高崎山エリアの多面的な魅力向上を図る取組が必要です。 ＊「大分ふぐ」や「りゅうきゅう」等の多様な「食」の効果的なPRやブランド力を向上させる取組が必要です。 ＊市内の温泉について、まちなかで気軽に楽しめる点や非火山性で有機物を多く含む泉質など、近隣自治体の温泉とは異なる「大分市らしい」特徴の効果的な情報発信が必要です。 ＊コロナ禍収束後を見据え、訪日外国人旅行者がストレスなく快適に、かつ安全・安心に観光できる受入環境整備が必要です。また、国や地域に応じて、異なる観光ニーズや嗜好性に合わせた情報発信を行う必要があります。 ＊経済波及効果が期待できるMICEの誘致やワーケーション・プレジャーなどビジネス観光の需要創出に向けた取組が必要です。 ＊新型コロナウイルス感染症等による旅行者のニーズの変化に対応した観光コンテンツの充実やプロモーションの実施が必要です。 ＊近隣自治体との連携強化による効果的なプロモーションや周遊促進に向けた仕組みづくりが必要です。 ＊観光関連事業者等とのさらなる連携強化や大分市観光協会の組織機能強化などによる、持続可能な観光地経営を推進する仕組みづくりが必要です。

5. WEBアンケート調査結果から見る大分市の観光の現状と課題

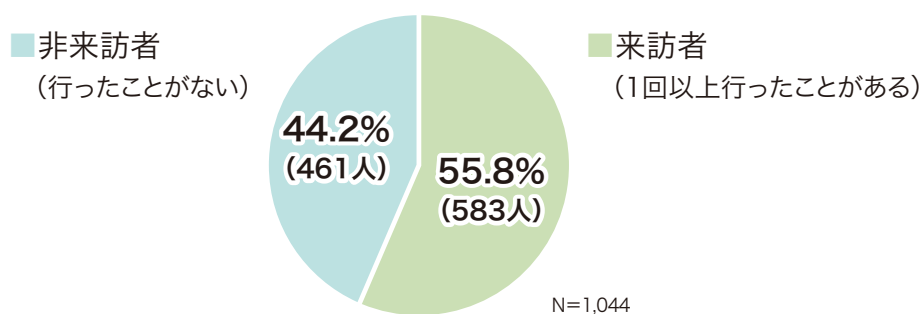
(1) 調査の概要

調査期間	2021(令和3年)年7月15日(木)～7月16日(金)	
調査方法	インターネット調査	
回収数	1,044名:マクロミル社のモニター会員10,000人をスクリーニング	
回答属性	年代	20代(24.9%)、30代(25.1%)、40代(25.1%)、50代以上(24.9%)
	性別	男性(38.6%)、女性(61.4%)
	居住地	大分県(大分市を除く)(158名)、福岡県(312名)、宮崎県(158名)、 関西圏(大阪府・兵庫県)(208名)、首都圏(一都三県※)(208名)

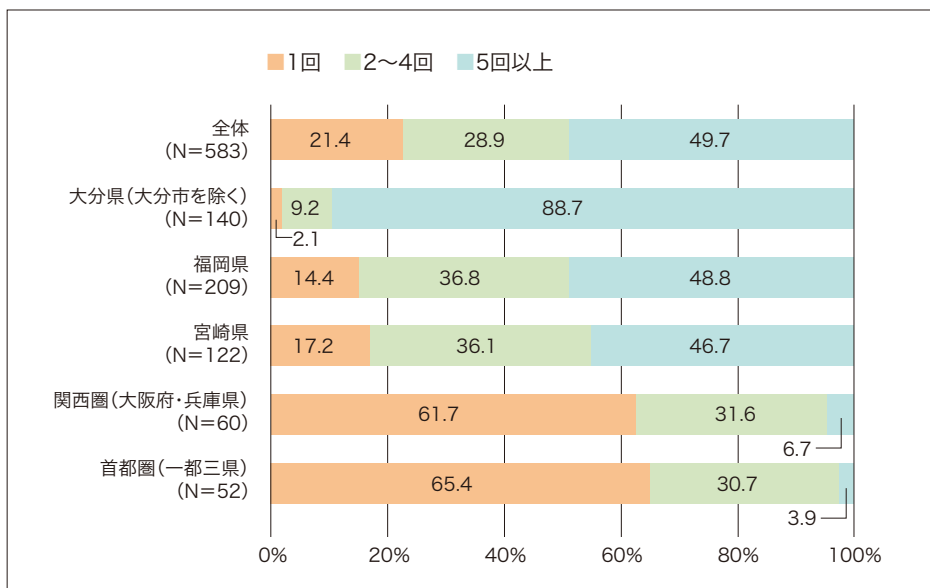
※一都三県…東京都・神奈川県・埼玉県・千葉県

(2) 調査結果

■大分市への来訪経験



■大分市への来訪回数



- ・隣接県(福岡県・宮崎県)については、共にリピート率が8割以上です。来訪歴が5回以上あるリピーターも5割弱を占めています。
- ・関西圏・首都圏については、リピート率は共に3割～4割程度です。ただし、来訪歴が5回以上のリピーターは少ないです。

■大分市への来訪目的(複数回答)

(%)

大分市への来訪目的	温泉 露天風呂	地元の 美味しいもの	有名な 観光施設	買い物 ショッピング
全体 (N=583)	54.9	44.1	40.7	35.3
大分県(大分市を除く) (N=140)	31.4	37.1	47.9	80.7
福岡県 (N=209)	63.2	47.8	46.4	18.2
宮崎県 (N=122)	59.8	50.0	50.0	37.7
関西圏(大阪府・兵庫県) (N=60)	63.3	38.3	15.0	10.0
首都圏(一都三県) (N=52)	63.5	40.4	5.8	5.8

- ・大分県(大分市除く)は、「買い物・ショッピング」目的が多数となっています。「温泉」や「食」が目的の来訪者は、他の地域に比べると低いです。
- ・県外来訪者(福岡県・宮崎県・関西圏・首都圏)については、いずれも「温泉」目的が約6割、「食」目的が4割～5割程度です。
- ・隣接県(福岡県・宮崎県)は、「観光施設」を目的とする来訪者が5割程度です。また、宮崎県は「買い物・ショッピング目的」の来訪者が4割弱であり福岡県と比較して多いです。

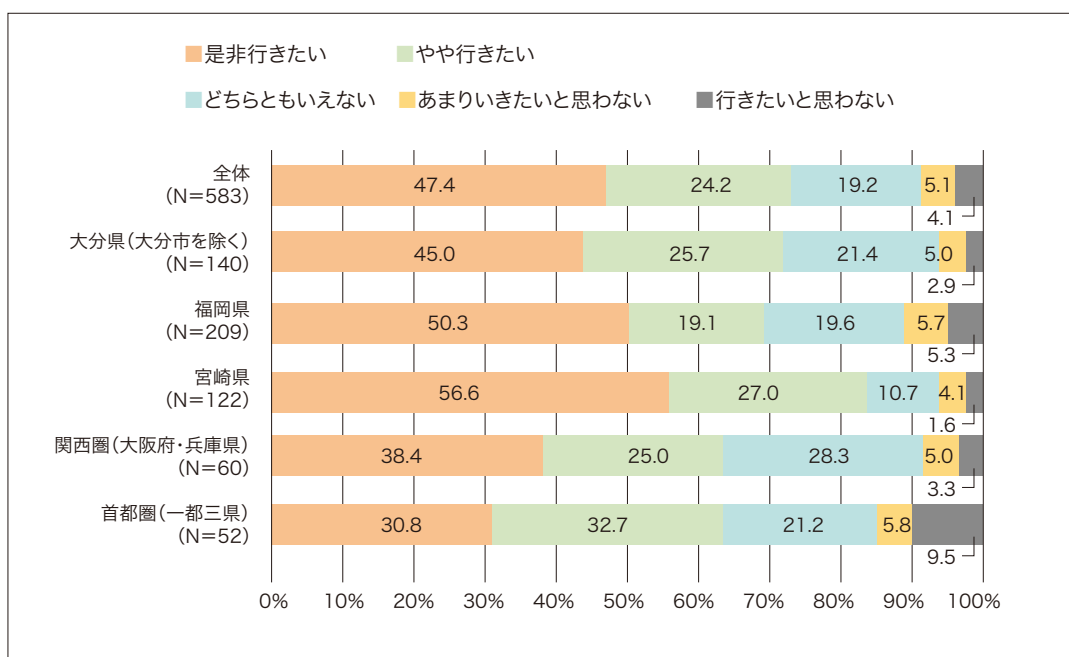
■大分市への来訪時の周遊エリア(複数回答)

(%)

来訪時の周遊エリア	別府市	由布市	臼杵市	豊後大野市	日田市	日出町
全体 (N=583)	82.8	45.8	17.3	13.0	20.1	23.5
大分県(大分市を除く) (N=140)	75.0	37.9	25.7	21.4	21.4	29.3
福岡県 (N=209)	87.6	56.0	19.6	14.8	32.1	31.1
宮崎県 (N=122)	88.5	46.7	10.7	10.7	9.8	21.3
関西圏(大阪府・兵庫県) (N=60)	75.0	40.0	5.0	1.7	11.7	5.0
首都圏(一都三県) (N=52)	80.8	30.8	15.4	1.9	1.9	3.8

- ・大分市を来訪する多くの人が別府市(約8割)、由布市(約3割～5割程度)を周遊しています。
- ・関西圏・首都圏については、別府市、由布市以外を来訪している人は少ないです。

■大分市への今後の来訪意向(再来訪)



- ・隣接県(福岡県・宮崎県)の方が、関西圏・首都圏に比べて再来訪意向が高い結果となっています。

■大分市の地域資源の認知度・興味度（来訪者と非来訪者との比較）

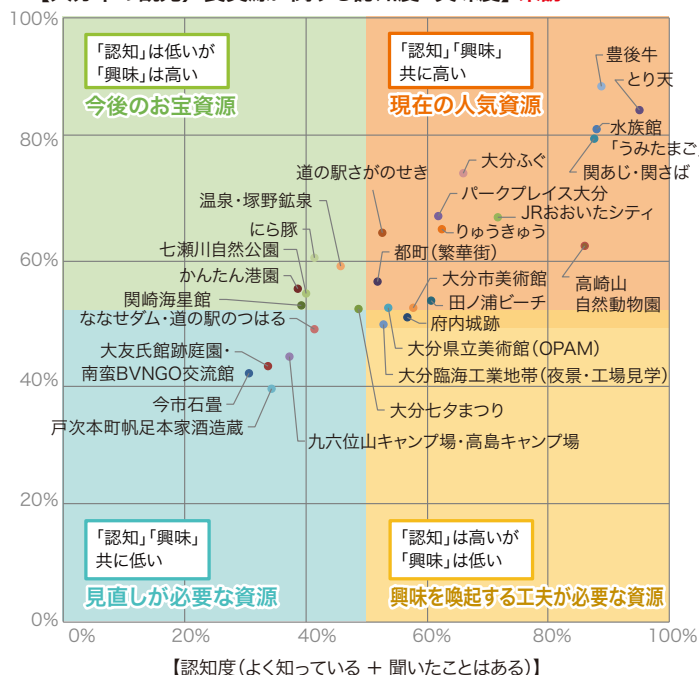
大分市の来訪経験あり

N=583 (%)

		認知度	興味度
人気資源	とり天	95.0	84.0
	豊後牛	88.9	87.8
	水族館「うみたまご」	88.0	81.0
	関あじ・関さば	87.5	79.4
	高崎山自然動物園	85.9	62.4
	JRおおいたシティ	71.7	66.9
	大分ふぐ	66.0	73.9
	りゅうぎゅう	62.4	65.0
	パークプレイス大分	61.9	37.2
	田ノ浦ビーチ	60.7	53.7
	大分市美術館	57.6	52.5
	府内城跡	56.8	50.9
	大分県立美術館 (OPAM)	53.7	52.7
	大分臨海工業地帯	53.0	49.9
	道の駅さがのせき	52.7	64.5
お宝資源	都町 (繁華街)	51.8	56.6
	にら豚	41.5	60.4
	温泉・塚野鉱泉	45.6	59.2
	かんたん港園	38.8	55.6
	七瀬川自然公園	40.1	54.7
見直し資源	関崎海星館	39.3	52.8
	大分七夕まつり	48.9	52.3
	ななせダム・道の駅のつはる	41.5	49.1
	九六位山・高島キャンプ場	37.4	44.8
	大友氏館跡庭園	33.8	43.2
	今市石畳	30.7	42.0
	戸次本町・帆足本家酒造蔵	34.3	39.6

【興味度（とても興味がある + やや興味がある）】

【大分市の観光／食資源に関する認知度×興味度】来訪



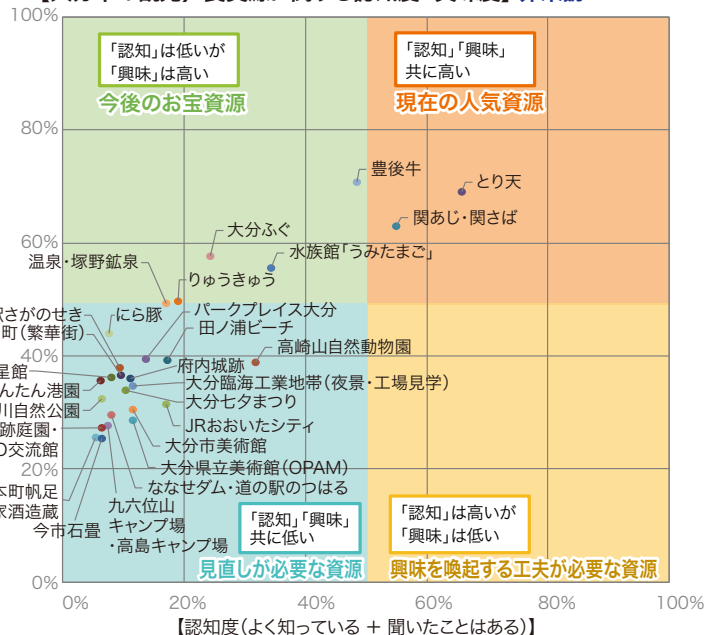
大分市の来訪経験なし

N=461 (%)

		認知度	興味度
人気資源	とり天	65.7	69.0
	関あじ・関さば	54.9	62.9
お宝資源	豊後牛	48.6	70.7
	大分ふぐ	24.3	57.7
見直し資源	水族館「うみたまご」	34.5	55.5
	りゅうぎゅう	19.1	49.7
	温泉・塚野鉱泉	17.1	49.2
	にら豚	7.8	43.8
	パークプレイス大分	13.9	39.5
	田ノ浦ビーチ	17.4	39.3
	高崎山自然動物園	31.9	38.8
	道の駅さがのせき	9.3	38.0
	都町 (繁華街)	9.5	36.7
	府内城跡	11.3	36.0
	関崎海星館	8.0	36.0
	かんたん港園	6.3	35.6
	大分臨海工業地帯	11.7	34.7
	大分七夕まつり	10.4	33.8
	七瀬川自然公園	6.5	32.3
	JRおおいたシティ	17.1	31.5
	大分市美術館	11.5	30.4
	ななせダム・道の駅のつはる	8.0	29.5
	大分県立美術館 (OPAM)	11.5	28.6
	九六位山・高島キャンプ場	7.6	27.8
	大友氏館跡庭園	6.5	27.3
	戸次本町・帆足本家酒造蔵	5.4	25.6
	今市石畳	6.5	25.4

【興味度（とても興味がある + やや興味がある）】

【大分市の観光／食資源に関する認知度×興味度】非来訪



- ・相対的に「食」に関連する地域資源の認知度・興味度が高くなっています。食を中心としたプロモーションが誘客に有効と考えられます。
- ・来訪者・非来訪者共通の人気資源は「とり天」「関あじ・関さば」です。人気資源を軸としたプロモーションが有効と考えられます。
- ・非来訪者にとってのお宝資源は「豊後牛」「大分ふぐ」「水族館うみたまご」です。新たな来訪者の獲得に向け、お宝資源の積極的なプロモーションが有効と考えられます。

■大分市の地域資源の認知度・興味度(来訪者のエリア別の比較)

大分県(大分市除く)

		N=140(%)	
		認知度	興味度
人気資源	とり天	98.7	82.3
	水族館「うみたまご」	98.1	79.1
	高崎山自然動物園	97.5	58.2
	豊後牛	96.8	86.1
	パークプレイス大分	96.2	80.4
	関あじ・関さば	96.2	75.9
	J R おおいたシティ	92.4	81.0
	りゅうきゅう	91.8	71.5
	田ノ浦ビーチ	91.1	51.3
	大分市美術館	86.1	53.8
	大分県立美術館(OPAM)	84.2	60.8
	大分ふぐ	81.0	70.9
	大分七夕まつり	76.6	55.7
	道の駅さがのせき	74.1	60.1
	かんたん港園	66.5	57.6
	七瀬川自然公園	65.2	52.5
	にら豚	62.7	58.2
興味喚起の工夫が必要な資源	関崎海星館	58.9	50.6
	都町(繁華街)	84.2	49.4
	府内城跡	80.4	40.5
見直し資源	大分臨海工業地帯	71.5	46.2
	ななせダム・道の駅のつはる	59.5	48.1
	九六位山・高島キャンプ場	50.6	34.8
	温泉・塚野鉱泉	46.2	43.7
	大友氏館跡庭園	49.4	38.6
	戸次本町・帆足本家酒造蔵	43.0	32.9
	今市石畳	33.5	32.9

福岡県

		N=209(%)	
		認知度	興味度
人気資源	とり天	91.7	83.3
	水族館「うみたまご」	89.7	77.6
	豊後牛	83.0	84.0
	関あじ・関さば	81.4	76.6
	高崎山自然動物園	81.4	60.3
	J R おおいたシティ	54.5	55.4
	大分ふぐ	51.0	70.2
お宝資源	道の駅さがのせき	36.5	59.3
	りゅうきゅう	46.8	58.7
	温泉・塚野鉱泉	32.7	58.3
	にら豚	24.7	53.8
	パークプレイス大分	36.5	53.5
	都町(繁華街)	30.1	53.5
	田ノ浦ビーチ	40.7	49.4
見直し資源	府内城跡	35.9	48.7
	関崎海星館	25.0	48.4
	大分市美術館	38.1	46.8
	かんたん港園	20.8	46.8
	大分臨海工業地帯	35.6	46.5
	大分七夕まつり	29.8	46.5
	ななせダム・道の駅のつはる	24.7	46.2
	七瀬川自然公園	24.7	45.5
	大分県立美術館(OPAM)	33.3	43.3
	九六位山・高島キャンプ場	26.9	39.4
	大友氏館跡庭園	20.2	39.4
	今市石畳	20.8	38.8
	戸次本町・帆足本家酒造蔵	21.8	36.5

宮崎県

		N=122(%)	
		認知度	興味度
人気資源	水族館「うみたまご」	92.4	82.9
	とり天	91.1	79.1
	高崎山自然動物園	81.6	63.9
	豊後牛	81.0	81.6
	関あじ・関さば	77.8	70.9
	J R おおいたシティ	67.1	69.0
	パークプレイス大分	63.3	72.2
お宝資源	大分ふぐ	54.4	63.9
	道の駅さがのせき	41.1	56.3
	にら豚	30.4	52.5
	かんたん港園	24.1	52.5
	大分臨海工業地帯	39.2	52.5
	りゅうきゅう	49.4	51.3
	田ノ浦ビーチ	43.7	50.6
見直し資源	九六位山・高島キャンプ場	31.0	50.6
	都町(繁華街)	36.1	50.0
	温泉・塚野鉱泉	43.0	50.0
	七瀬川自然公園	25.3	50.0
	府内城跡	43.7	46.8
	大分市美術館	47.5	45.6
	関崎海星館	27.8	44.3
	大分七夕まつり	34.2	44.3
	大分県立美術館(OPAM)	47.5	43.7
	ななせダム・道の駅のつはる	33.5	42.4
	戸次本町・帆足本家酒造蔵	29.7	38.6
	大友氏館跡庭園	27.8	34.8
	今市石畳	27.2	34.2

関西圏(大阪府・兵庫県)

		N=60(%)	
		認知度	興味度
人気資源	とり天	64.5	73.1
	関あじ・関さば	55.3	67.3
	豊後牛	44.7	74.5
お宝資源	大分ふぐ	30.3	64.4
	水族館「うみたまご」	24.5	59.1
	温泉・塚野鉱泉	26.4	58.7
	りゅうきゅう	17.8	55.3
	にら豚	13.9	52.9
見直し資源	関崎海星館	11.5	46.6
	道の駅さがのせき	13.0	45.2
	都町(繁華街)	13.5	44.7
	田ノ浦ビーチ	22.1	44.7
	高崎山自然動物園	26.4	42.3
	パークプレイス大分	12.0	42.3
	府内城跡	19.2	41.8
	七瀬川自然公園	9.6	41.8
	かんたん港園	11.1	41.3
	大分臨海工業地帯	20.7	37.0
	大分七夕まつり	14.4	37.0
	大友氏館跡庭園	8.7	36.1
	ななせダム・道の駅のつはる	12.0	35.1
	大分県立美術館(OPAM)	12.5	34.1
	大分市美術館	13.5	34.1
	J R おおいたシティ	18.8	33.2
	九六位山・高島キャンプ場	9.1	33.2
	今市石畳	13.0	31.7
	戸次本町・帆足本家酒造蔵	9.6	29.8

首都圏(一都三県)

		N=52(%)	
		認知度	興味度
人気資源	とり天	64.9	67.8
	関あじ・関さば	57.2	68.3
	豊後牛	52.4	75.0
お宝資源	大分ふぐ	29.3	63.0
	温泉・塚野鉱泉	22.6	57.7
	りゅうきゅう	22.1	55.8
	水族館「うみたまご」	19.2	51.4
	にら豚	12.0	48.6
見直し資源	道の駅さがのせき	13.0	42.3
	府内城跡	16.8	41.3
	田ノ浦ビーチ	23.1	41.3
	かんたん港園	11.5	39.4
	都町(繁華街)	16.3	39.4
	大分七夕まつり	16.8	38.9
	パークプレイス大分	16.3	37.5
	七瀬川自然公園	11.5	37.0
	関崎海星館	13.0	36.5
	高崎山自然動物園	26.9	35.6
	大分臨海工業地帯	16.3	35.1
	大分市美術館	14.9	34.6
	今市石畳	10.1	33.2
	大分県立美術館(OPAM)	13.5	32.7
	大友氏館跡庭園	11.5	30.8
	ななせダム・道の駅のつはる	14.4	29.8
	九六位山・高島キャンプ場	10.1	29.8
	戸次本町・帆足本家酒造蔵	10.6	28.8
	J R おおいたシティ	17.3	26.9

・大分県(大分市除く)では、お宝資源がないため、興味度を高める対策が必要です。

・福岡県、宮崎県、関西圏(大阪府・兵庫県)、首都圏(一都三県)の見直し資源の中に、「歴史」「景観」「芸術」に関連するものが多く、観光的活用についての対策が必要です。

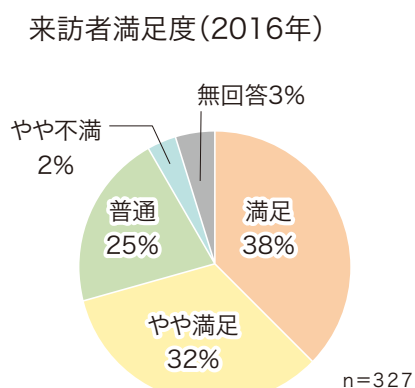
■大分市に対する観光地としてのイメージ

	1位	2位	3位	4位	5位
大分県(大分市除く)	車で 行きやすい	おいしい飲食店が 豊富にある	ご当地グルメや食文化が魅力的である 子供と一緒に楽しめる地域である		女性が楽しめる地域 夫婦で楽しめる地域
福岡県	温泉を楽しめる	豊かな自然や景色を楽しめる 車で行きやすい		シニア層が 楽しめる地域	ご当地グルメや 食文化が 魅力的である
宮崎県	温泉を楽しめる	夫婦で 楽しめる地域	豊かな自然や景色 を楽しめる	シニア層が 楽しめる地域	宿泊施設が 魅力的である
関西圏(大阪府・兵庫県)	温泉を楽しめる	豊かな自然や景色 を楽しめる	シニア層が 楽しめる地域	夫婦で 楽しめる地域	まち歩き・散策が 楽しめる
首都圏(一都三県)	温泉を楽しめる	豊かな自然や景色 を楽しめる	シニア層が 楽しめる地域	夫婦で 楽しめる地域	宿泊施設が 魅力的である
男性	温泉を楽しめる	豊かな自然や景色 を楽しめる	シニア層が 楽しめる地域	夫婦で 楽しめる地域	ご当地グルメや 食文化が 魅力的である
女性	温泉を楽しめる	豊かな自然や景色 を楽しめる	シニア層が 楽しめる地域	夫婦で 楽しめる地域	ご当地グルメや 食文化が 魅力的である

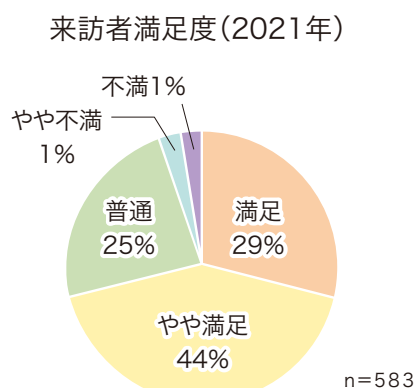
- ・大分県(大分市除く)と他地域で「温泉を楽しめる」というイメージに大きな差があります。大分市も含めて大分県＝温泉というイメージが根付いていると考えられるため、温泉のイメージや、別府市・由布市の魅力を合わせた広域的なプロモーションが有効と考えられます。
- ・同様に「豊かな自然や景観を楽しめる」というイメージにも同じ傾向が見られます。
- ・大分県(大分市除く)では、「食」に対するイメージが強いが、他地域ではあまり強くイメージされていません。食の魅力を他地域にも積極的に発信することで、魅力ある観光コンテンツとなる可能性があります。

■来訪者満足度の推移

本市の来訪者満足度は、2016(平成28)年に実施した大分市観光実態調査では「満足」と「やや満足」の合計が70%でした。2021(令和3)年のWEBアンケート調査では「満足」と「やや満足」の合計が73%と前回の調査からは3ポイント増加しました。



資料:2016(平成28)年実施 大分市観光実態調査



資料:2021年(令和3)年実施 WEBアンケート調査

(3) 調査結果から見る大分市の観光の課題

課題1 観光地としてのイメージ戦略が不十分／強みを活かしたブランドイメージを確立させる必要があります

- ＊ 大分市に対するイメージとして「温泉を楽しめる」が最も強い一方で、地域資源としての市内の温泉については、決して認知度は高くない状況です。
- ＊ 大分市の地域資源で「食」が高く評価されており、大分県のキャッチフレーズである「味力も満載」と連動するなど、イメージの確立が必要です。

課題2 地域資源の本質的価値が活かされていない／地域資源の観光コンテンツ化が必要です

- ＊ 地域資源の中で「見直し資源」については、興味度を向上させる対策が必要です。
- ＊ 大分県(大分市除く)と福岡県・宮崎県、関西圏(大阪府・兵庫県)・首都圏(一都三県)で興味度の高い地域資源は異なっています。誘客ターゲットに応じた観光コンテンツの磨き上げが必要です。

課題3 誘客の柱となる観光コンテンツが少ない／「食」以外の強い観光コンテンツが必要です

- ＊ 既存の地域資源だけでは宿泊を伴う県外エリアからの新たな誘客は厳しい状況です。
- ＊ 「大分市ならではの」産業や文化を活かした新たな観光コンテンツ開発が求められています。

課題4 ターゲットエリア別にニーズが異なる／PRにおける「お宝資源」の有効活用が重要です

- ＊ 大分県(大分市除く)と福岡県・宮崎県、関西圏(大阪府・兵庫県)・首都圏(一都三県)で「お宝資源」は異なっています。
- ＊ 「お宝資源」をエリアに応じ効果的に情報発信することで、認知度が向上し「人気資源」となることが期待できます。

課題5 インバウンドニーズや感染症への対策／安全・安心に観光を楽しめる仕組みが必要です

- ＊ 外国人旅行者の誘客やリピーターの獲得には、旅行者の多様なニーズに対応した「おもてなし」の向上が必要です。
- ＊ Withコロナ・Afterコロナ等の情勢に対応した感染症に対する「衛生対策」が不可欠です。

課題6 「持続可能な観光」の実現に向けた体制づくり／関係機関や団体等との連携強化が必要です

- ＊ 大分県や他の自治体等との広域的な連携によるスケールメリットを活かした誘客が期待できます。
- ＊ 異なる産業や業種とのコラボレーションによる多様な観光振興に向けた取組が重要です。